



曾根干潟の生き物

かんたんガイドブック

名前と見分け方

カブトガニ

干潟で産まれた幼生



脱皮をしながら成長する



産卵のために集まってきたところ
産卵の時に泡が出る

その他

マテガイ

砂質の場所に多い



砂に素早く潜ることができる

アナジャコ

2m程度の深い巣穴に生息



大きさ約10cm
筆を使って釣り上げることができる

ハサミシャコエビ

巣穴の深さは1m程度



大きさ約5cm



曾根干潟の生き物に出会えるマップ

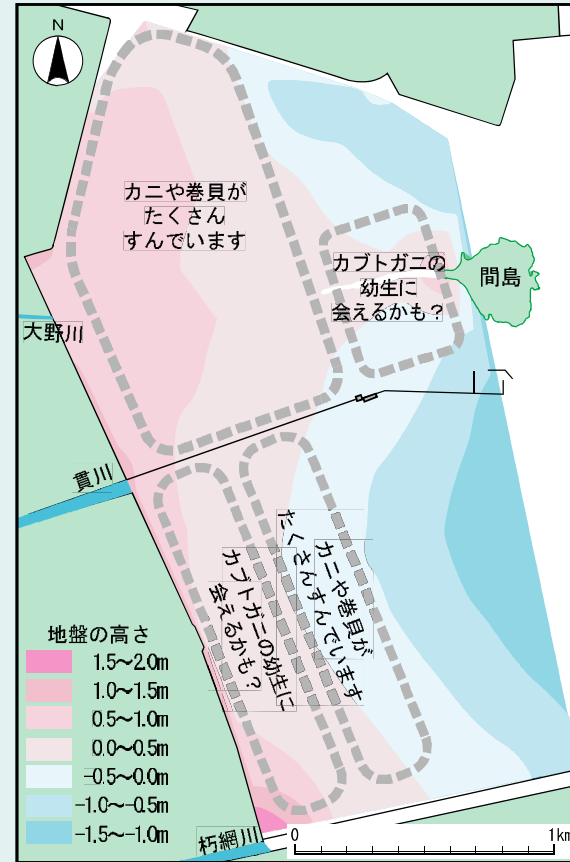
干潟の生き物は、サクサクの砂やトロトロの泥といった土の質、引き潮の時に干上がる時間の長さに関わる地盤の高さなどによって、棲む場所を選んでいきます。

広い干潟で生き物に出会うコツは、泥の質や地面の高さを手がかりにすることです。

曾根干潟においても、泥の質や地面の高さで棲む種類が違ってきます。

とっても小さいカブトガニの幼生に出会える場所は図のとおりです。

カブトガニの幼生は人が入ると足が埋まって歩けないような柔らかい泥が大好きです。会いに行くときはぬかるみでも歩けるように、また、万が一はまりこんでも抜け出せるように、草スキーなどの板を準備して会いに行きましょう。



ここに紹介した生物の希少性

曾根干潟には、カブトガニなどの希少な生物がたくさん生息しています。

このガイドで紹介した生物の希少性は表のとおりです。曾根干潟では普通にみられる種類でも、全国的には希少な種類が含まれていることが分かります。

絶滅危惧Ⅰ類は最も絶滅の危機に瀕している種類、次いで絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧種の順に絶滅の危機が小さくなります。

曾根干潟は、大都市近郊にありながら、希少な生物がたくさん生息する数少ない場所です。

このような自然環境を守るとともに、将来はカブトガニなどの絶滅の危機が小さくなるように共に考え、行動する必要があります。

種名	環境省 レッドリスト	福岡県 レッドデータブック
カブトガニ	絶滅危惧Ⅰ類	-
ヤマトオサガニ	-	-
オサガニ	-	準絶滅危惧
シオマネキ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
ハクセンシオマネキ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ヒメアシハラガニ	-	準絶滅危惧
ウミミナ	準絶滅危惧	-
ホソウミミナ	-	-
ツボミガイ	準絶滅危惧	-
フトヘナタリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
シマヘナタリ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類
ヘナタリ	-	-
イボニシ	-	-
アカニシ	-	-
マテガイ	-	-
トビハゼ	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧
アナジャコ	-	-
ハサミシャコエビ	-	-

-は希少種として記載されていないことを示す

カニ類

ヤマトオサガニ



曾根干潟で最も多いカニ 泥質の場所に多い



全体が灰色 ↑ハサミに隙間がない

オサガニ



↓ハサミに丸い隙間ができる



砂質の場所に多い



ハサミは赤色が多い

シオマネキ



ハサミは赤色が多い



甲羅はグレーが多い

泥質の場所に多い



メスのハサミは小さい

ハクセンシオマネキ



ハサミは白色が多い



どちらか一方のハサミが大きい

ヒメアシハラガニ



緑色っぽいが多い



干潟上を走って逃げる

●カニ類、巻貝類の大きさは、ほぼ実物大

巻貝類

ウミニナ



白いかたまりになっている



イボイボが大きい場合もある

ホソウミニナ



白くならない

ツボミガイ

ウミニナにひっついている



フトヘナタリ

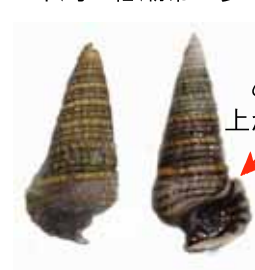
干潟の高潮帯に多い



先がとんがっていないものが多い

ヘナタリ

干潟の低潮帯に多い



めくれ上がっている

シマヘナタリ

ヨシ原に少しだけ生息



殻の形がシマシマ

イボニシ

岩場や石の上に多い

丸みを帯びたイボイボ



岩に産み付けられたイボニシの卵塊

アカニシ

少し深い場所や石の裏に多い

尖ったイボイボ



カブトガニにひっついていることもある



魚類

トビハゼ

干潟を飛び跳ねて逃げる



小さな動物を食べる

カブトガニに産み付けられたアカニシの卵塊



ムツゴロウは曾根干潟に生息しない